



---

# ヨハネの手紙

Epistle of John



# 目次

---

- 1 神は光である God is light  
ヨハネの手紙 第一 1:1~2:2
- 2 キリストのうちに Abide in him  
ヨハネの手紙 第一 2:3~29
- 3 神の子ども Children of God  
ヨハネの手紙 第一 3:1~24
- 4 神は愛である God is love  
ヨハネの手紙 第一 4:1~21
- 5 私たちの確信 This is the confidence  
ヨハネの手紙 第一 5:1~21
- 6 よく気をつけて Watch yourselves  
ヨハネの手紙 第二 1~13
- 7 真理のうちを歩む Walk in the truth  
ヨハネの手紙 第三 1~15

巻末：司会者のために

# 1

## 神は光である

### God is light

ヨハネの手紙 第一 1:1~2:2

#### はじめに

この手紙が書かれた当時、間違った考え方を持つ人たちがいたようです。その中のひとつは罪に対する態度に関するものでした。

1. ヨハネがこの手紙を書いた動機と目的はなんでしょうか。
2. 「神は光」(1:5)とはどういうことだと思いませんか。
3. 「闇の中を歩んでいる」(6)、「光の中を歩んでいる」(7)とはどういう状態を表していると思いませんか。
4. 1章6, 8, 10節のように言われるのはなぜでしょうか。
5. 聖書はすべての人が罪人であると言います(ローマ3:9, 23)。罪が赦されるためには何が必要でしょうか。

6. 「私の子どもたち」(2:1)という呼びかけにどんな印象を持ちますか。
  
7. 2章1節には「罪を犯さないようになるため」とあり、「罪を犯したなら」ともあります。罪を犯すことに対する私たちのふさわしい態度とはどのようなものだと思いますか。
  
8. 罪を犯している者のために、神がしてくださったことはどのようなことでしょうか。

## まとめ

この手紙が書かれた目的は「御父また御子イエス・キリストとの交わり」(1:3)を持つようになるためということでした。そのために、ヨハネはまず「神は光」(1:5)であることを明らかにし、人間の罪の問題を取り扱っています。

- a. この箇所には「偽り」、「欺き」という言葉が出てきます。私たちも生活の中で本音と建前を使い分けてしまうことがあります。あなたは神との関係の中で本音と建前を使い分けていることがあるでしょうか。
  
- b. あなたが「神は光」(1:5)であるという真理を知るとき、変えられるべき生き方はあるでしょうか。率直に分ち合い、互いのために祈る時を持ちましょう。

# 2

## キリストのうちに

### Abide in him

---

ヨハネの手紙 第一 2:3～29

#### はじめに

1章1節から2章2節では、神が光であることがキリスト者の生き方の基盤になっていることを見ました。ヨハネはその事実にかけて、その事実が生活の中でどのように実現されていくかを述べています。

1. 人が「神を知っている」(3)、または「神のうちにいる」(5)かどうかは、どのようにしてわかりますか。(3～6)
2. 「神の命令を守っている」(3)、「神のことばを守っている」(5)、「イエスが歩まれたように」(6)とはどういう歩みだと思えますか。
3. 「光の中にいる」(9)者は、兄弟に対してどのような態度をとるでしょうか。(9～11)

ヨハネは、12～14節でいろいろな呼びかけをして、読者たちがどのような状態であるかを確認しています。

4. この手紙の読者はどのような状態だったのでしょうか。なぜヨハネはこのことを確認したのだと思いますか。
  
5. 「終わりの時」(18)にキリスト者はどのように歩むことが教えられていますか。

## まとめ

ヨハネはキリスト者の信仰が生活の中でどのように実現されるべきかを述べています。それはひとこと言えば、「キリストのうちにとどまる」ことであると言えます。

私たちが、今生活している場所で「キリストにとどまる」とはどういう生き方でしょうか。話し合ってみましょう。

# 3

## 神の子ども

### Children of God

---

ヨハネの手紙 第一 3:1～24

#### はじめに

今日の箇所には「神の子ども」という表現があります。「私は〇〇の子ども」という表現は実際の血縁関係がなくても使うことができますが、このような表現をするとき、「私」と〇〇の間の関係はどのようなものでしょうか。

1. ギリシャ語の原文を見てみると、1節は「見よ。なんとという愛」という言葉ではじまっています。この「愛」はどのような愛でしょうか。今日読んだ箇所から考えてみましょう。
2. 私たちは神の愛ゆえに「神の子ども」です。「神の子ども」にはどのような特徴があるでしょうか。(1～12)
3. あなたは自分に「神の子ども」の特徴があると思いますか？理由も含めて分かち合ってみましょう。

10節からは神の子どもの特徴のひとつとして、互いに愛し合うことと兄弟を愛することに注目しています。

4. 兄弟を愛するとはどのようなことでしょうか。具体的なことも含めて分かち合ってみましょう。(16~18)
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
5. 私たちが互いに愛し合うことは「神の命令」(23)だと書かれています。なぜこのような命令があるのだと思いますか。

## まとめ

神の愛のゆえに私たちは神の子どもとされています。今日の箇所に書かれていたように神の子どもにはそれにふさわしいあり方がありますが、私たちの現実はなかなか理想通りではありません。

- a. なぜ私たちは兄弟を愛することができないのでしょうか。困難さを覚えることや障害になっているものがあれば話し合ってみましょう。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- b. 私たちが「行いと真実をもって」(18)愛するためには何が必要でしょうか。今日教えられたことを含めて話し合ってみましょう。

# 4

## 神は愛である

God is love

---

ヨハネの手紙 第一 4:1～21

### はじめに

3章23節で「神の命令」とは御子イエス・キリストの名を信じることと互いに愛し合うことだと述べられました。4章では、この話題が続いていきます。

### 1～6節

1. ヨハネは信じることについて何を注意していますか。  
また、なぜこのような注意をしたのでしょうか。
2. どうやって「霊」を見分ければ良いのでしょうか。  
また、その具体的な内容はどのようなことでしょうか。

### 7～12節

3. ここには神と愛の特徴が記されています。それぞれどのような特徴があるのでしょうか。

4. 神の愛は私たちとどのような関係があるでしょうか。

### **13～21節**

5. 完全な愛のしるしは何でしょうか。

6. 愛が完全なものとなるためには何が必要でしょうか。

### **まとめ**

4章7～12節をもう一度読んで、今日教えられたことを分かち合ってみましょう。

# 5

## 私たちの確信

### This is the confidence

---

ヨハネの手紙 第一 5:1～21

#### はじめに

神の命令とは御子イエス・キリストの名を信じ、私たちが互いに愛し合うことでした(3:23)。この手紙の最後では、イエス・キリストを信じた者たちにある確信について述べられています。

あなたはどのようなことに確信を持っていますか。理由も含めて分かち合ってみましょう。

1. イエスを信じる者の特徴にはどのようなものがありますか。また、彼らが持っているのはどのような確信でしょうか。
2. 「世に勝つ」(4)とはどういうことだと思えますか。

3. 私たちが「永遠のいのち」(11、13)を持っていることを自覚しているのとしていないのとのでは、何か違いがあるでしょうか。
  
4. 神が聞いてくださる願いとはどのような願いですか。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
5. 私たちはどのようにして「真実な方」(20)を知ることができますか。

## まとめ

13節に「持っていることを、あなたがたに分からせるため」と書いていることからわかるように、私たちは自分が持っているものに対して、十分に理解していなかったり、よくわからなくなったりしてしまうことがあります。

今日の読んだ箇所から何か新たな発見や改めて確認できたことはありますか。それぞれ分かち合ってみましょう。

# 6

## よく気をつけて

### Watch yourselves

---

ヨハネの手紙 第二 1～13

#### はじめに

キリスト教会は二千年の歴史の中で、いろいろな課題・問題に直面してきました。それは内側から起こることもあれば、外側から起こってくることもありました。この手紙が書かれた時には、外からの問題があったようです。

1. 長老ヨハネが「大いに喜んで」(4)いるのはどんなことでしょうか。
2. 長老ヨハネはどんなことをお願いしていますか(5)。またそれはなぜだと思えますか。
3. 「惑わす者」「反キリスト」(7)とありますが、これはどのような人たちだと思えますか。

4. 私たちも知らないうちに「惑わす者」「反キリスト」のような考えを持ってしまう危険があります。そうならないためには何が必要だと思いますか。
  
5. 10～11節はかなり厳しい言い方のように思えます。なぜこのような厳しい言い方をするのだと思いますか。私たちはそのような人たちとどのように関わればよいのでしょうか。
  
6. 手紙の最後は「私たちの喜びが全きものとなるため」(12)とあります。私たちの交わりがこのようなものになるためにはどうすれば良いと思いますか。

## まとめ

今日の読んだ箇所から何か新たな発見や改めて確認できたことはありましたか。それぞれ分かち合ってみましょう。

# 7

## 真理のうちを歩む

### Walk in the truth

---

ヨハネの手紙 第三 1～15

#### はじめに

この手紙は「もてなすこと」について書かれています。

あなたがこれまで誰かにしたもてなし、誰かにしてもらったもてなしについて、良かった面と悪かった面を具体的に分かち合ってみましょう。

#### 1～8節 愛するガイオへ

1. 長老ヨハネの「大きな喜び」(4)はどのようなことでしょうか。
2. ガイオは「真理に歩んでいる」(3)と言われていますが、なぜ彼はこのように歩むことができたのだと思いますか？
3. 長老ヨハネはガイオにどんなことを勧めていますか。(7～8)
4. 「神にふさわしい仕方で」(6)とありますが、あなたがこのように実行しようとするとき、具体的にどのような行いになるでしょうか。

## 9～11節 ディオテレペスについて

5. ディオテレペスはどのような人物だと書かれていますか。
6. ディオテレペスはなぜそのようなことをしていたのだと思いますか。

## 12節 デメテリオについて

7. デメテリオはどのような人物だと書かれていますか。

### まとめ

「愛する者よ。悪を見ならわなないで、善を見ならいなさい。」(11)とありますが、長老ヨハネがディオテレペスとデメテリオを並べて書いているのは、ガイオがどちらを模範とすべきか教えるためであるとも言えます。

あなたの周りには真理のうちを歩んでいて模範にできるような人がいますか。その人のどのような点が模範にできるのか考え、分かち合ひましょう。

司会者のために

---

# Ⅰ．緒論（ヨハネの手紙 第一）

## （１）著者

この手紙の著者ヨハネは、ガリラヤ出身で漁師をしていた人物で、十二弟子の一人、福音書を書いたヨハネと同一人物です。父はゼベダイ、母はイエスの母マリヤの妹サロメだと考えられます(マタイ27:56、マルコ15:40、16:1、ヨハネ19:25)。兄は同じく十二弟子のヤコブです。ペテロと兄ヤコブとともに12弟子の筆頭で、イエスの御姿が変わる変貌山を経験しました(マタイ17:1~8)。一方で母と兄とともに世的な出世を求める失敗もしました(マタイ20:20~28)。十字架上のイエスから母マリヤを託され、引き取っています(ヨハネ19:27)。自分のことは「主に愛されている者」と自己紹介しています(ヨハネ13：23、20:2)。

## （２）手紙の宛先

この手紙は、特定の地方教会に宛てられてのではなく、かなり狭い地域に限定される人々(2:19)、ヨハネが責任を持っていたいくつかの教会に向かって書き送られたと考えられます。

## （３）執筆年代

この手紙が執筆された年代は、85~90年頃と考えられ、ヨハネの福音書の後には書かれたと考えられています。

## （４）執筆背景

当時の教会は、人となって世に来られた御子イエス・キリストを否定する偽教師たちに惑わされていたようです(2:19、22、4:2、3)。彼らはイエスのメシヤ性ではなく受肉を否定していたと考えられます。また手紙の内容から、彼らはこの世が恋しく、未練があり(2:15~17)、光に対して誠実ではなく(2:24~27)、神の命令を守らず、兄弟を愛さず(3:15~18)、救いの確信を持つに至っていなかった(5:13)ようです。

## （５）手紙の目的

ヨハネが手紙を書いた目的は、私たち、御父と御子と交わりを持つため(1:3)、喜びが全きものとなるため(1:4)、罪を犯さないようになるため(2:1)、永遠のいのちを持っていること(救いの確信)をよくわからせるため(2:12、5:13)、キリストへの信仰によっていただいた永遠のいのちの豊かさを確認するためだということが読み取れます。

## II. 質問の意図、司会者の心得

### 1 神は光である ヨハネの手紙 第一 1:1~2:2

---

1. ヨハネは実際にイエスと共に生活していた人物であるということを確認しましょう。「いのちのことば」についてはヨハネの福音書1章の冒頭と比較してみても面白いかもしれません。「いのち」はイエス・キリストを指していると考えられます。
  2. 光の性質、イメージから考えてみましょう。
  3. 「歩んでいる」というのは「歩み続けている」という意味も含んでいます。
  4. 「神との交わり」と「やみの中を歩むこと」の間にある矛盾や、「罪はない」、「罪を犯してはいない」と言う時に起こる矛盾や聖書の教えとの違いに注目しましょう。
  5. 罪の赦しには自分の罪を言い表すこと(悔い改め)が必要なことを確認し、なぜその悔い改めが有効なのかを考えましょう。
  6. ヨハネはたびたびこのような呼びかけをしています。(例、「愛する者たち」(2:7、3:2、4:1)、「父たちよ」(2:13)、「小さい者たちよ」(2:14)、「子どもたちよ」(2:28、3:18)など)
  7. 罪を犯してもよいという考えやクリスチャンは罪を犯さないとう極端な考えは間違っていることを確認しましょう。
  8. ここで記されているイエス・キリストがどういうお方なのかを確認しましょう。
- まとめ a. 信仰と生活を切り離してしまっている(意識的にも無意識的にも)部分があるかどうか率直に分か合えるとよいでしょう。
- まとめ b. 光の中を歩むということは罪を犯さないことではなく、罪を犯してしまった時に、悔い改めて神に立ち返り続けることだということを確認しながら分かち合いましょ。

## 2 キリストのうちに ヨハネの手紙 第一 2:3~29

---

はじめに

神は光であり、光の中を歩むということはそこにあるものが照らし出されて、露わになることを意味しています。前の課では、そのようにして露わになった人間の罪の問題を扱い、どんな人間にも罪があること、その罪を解決する必要があること、キリストの血だけがその解決の方法であることを確認しました。この課を始めるにあたって、最初に2章1~2節を読んでも良いでしょう。

1. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
2. 1で読み取ったことが具体的にどういう生き方なのかを考えてみましょう。ひと言でいうと・・・
3. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
4. 「子どもたち」という呼びかけは、読者であるキリスト者一般を指していると考えられます。キリスト者であることの基盤、神との交わりの基盤がどこにあるのかを考えてみましょう。
5. 積極面（命令形）と消極面（禁止形）を考えてみましょう。

おわりに、

キリストにとどまることが具体的な状況の中でどのような歩みになるのかを考えましょう。妨害しているもの、障害となっているものがないか。どうすればキリストにとどまることができるかなども話し合い、そのために互いに祈る時を持ちましょう。

### 3 神の子ども ヨハネの手紙 第一 3:1~24

---

はじめに、

「○○チルドレン」という言い方もあります。

それぞれの責任や互いに対する思いを考えてみましょう。特にここでは親の立場の方から言われていることに注目して考えてみると良いでしょう。

1. 16節にキリストが私たちのためにいのちをお捨てになったことが書かれていることを見つけてください。ヨハネの福音書3章16節などを開いて確認してもよいでしょう。
2. 「自分を清くします」(3節)、「罪を犯さない」(6、9節)を見つけましょう。もちろん、それ以外のことが挙がっても構いません。
3. ここでは「罪を犯さない」ということから、自分の罪に目が向いている人が、自分は罪を犯してしまっているから神の子どもではない、という考えに陥ってしまうことを退けてください。ここでの「罪を犯す」というのは、いつも罪を犯すことを考えていること、生活全体の方向性が罪に向かっていることを指します。1章6~7節を振り返ってもよいでしょう。
4. 「兄弟」とは誰のことを指しているのかも考えてみましょう。書かれていることを確認しながら、自分にとって具体的に、現実的に、今の生活の中で兄弟を愛することがどのような行いとなって現れることができるか考えてみましょう。
5. 16節からの接続詞に注目して、話の展開を見てみましょう。  
私たちが愛した→神が愛した→神の子どもになる  
ではなく  
神が愛した→神の子どもになる→私たちは愛する  
であることを確認しましょう。

おわりに、

自分の現実を率直に認めつつ正直に分かち合ひましょう。特にbでは、5の順番に注目して考えてみるとよいでしょう。

## 4 神は愛である ヨハネの手紙 第一 4:1~21

---

はじめに

前の課を簡単に振り返ってから始めても良いでしょう。

1. 「霊」というのは、教えや教師の背後にあって動かしているものことです。「にせ預言者」については、2章22節を参考にしてください。
2. 「告白する」(2)というのは、心の内と同じ言葉を口にすることを意味します。告白する内容はどのようなことか考えてみましょう。  
キーワード「人となって来たイエス・キリスト」
3. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
4. 3の間をふまえて考えてみましょう。
5. キーワード「恐れ」、「兄弟愛」。  
20節の「目に見える兄弟」とは「ずっと見ている兄弟」の意味で、一番身近にいるキリスト者のことを指します。
6. 13~16節を中心に考えてみましょう。

まとめ

率直な分かち合いができるように進めましょう。

## 5 私たちの確信 ヨハネの手紙 第一 5:1~21

---

はじめに

「確信する」ということがどのようなことなのかを考え始める導入です。あまり考え込まずに自由に話し合ってください。

1. 今日の箇所全体に何が書かれているのかを詳しく見てみましょう。
2. 「世」とは、サタンの支配下にある領域、人間の罪性の反映、キリストに反抗する勢力の象徴です。(新聖書辞典の「世」の項目(1296ページ)を参照。)
3. キリスト者の学生は、イエス・キリストを信じる前と後で何が変わったかを証してもよいでしょう。
4. 自分がどのような祈りをしているかを結びつけて考えてみましょう。
5. 聖書を読むことはもちろんですが、それ以外のことも考えられると良いでしょう。

まとめ

率直な分かち合いができるように進めましょう。

## 6 よく気をつけて ヨハネの手紙 第二 1~13

---

### 緒論（時代背景）

ヨハネの手紙第二・三は、巡回伝道者へのもてなしに関する主題を扱っています。ローマによって整備された道路や共通言語ができたことによって福音が急速に広まった時代でした。そういう中で巡回伝道者は地方の教会に寝泊まりさせてもらうことが多かったようです。

### 語句

【長老 ヲヨウ】(1) 単なる老齢のことではなく、公式な立場を表している。ここではヨハネ自身のことを指している。

【家 仁】(10) この手紙は個人宛ではなく、教会に宛てて書かれている。ここでは教会という建物が存在する前のいわゆる家の教会のことを指していると考えられる。

1. 1~5までで読んだことを思い出しながらかえられると良いでしょう。
2. お願いをするには理由があります。7節を参考にしながら、なぜこのようなお願いを手紙でする必要があったのかを考えましょう。
3. 聖書に書かれていることから読み取るとともに、歴史の中で現れた異端についてとりあげてもよいでしょう。
4. 前の問いの延長です。「惑わす者」「反キリスト」もはじめからそうであったわけではない。異端にしても、どこかで道を踏み外してしまったというケースがほとんどであると言えます。なぜそうなってしまったかを考えながら答えられるとよいでしょう。
5. ここは全く関わらないようにということではありません。私たちがその間違った教えを取り込むことがないように注意しつつ、歓迎してもてなし、その人の心をより良く導くようにすべきであると言えます。ここでは、具体的なことを例に挙げて話し合ってもよいでしょう。
6. 交わりの健全性の確保と成長のために何が必要かを話し合ってみましょう。まとめとして、「クリスチャンの成熟はキリストの教えを超えて進歩することではなく、その理解において成長することである」という言葉を紹介してもよいでしょう。

## 7 真理のうちを歩む ヨハネの手紙 第三 1~15

---

### 緒論（時代背景）

ヨハネの手紙 第二の緒論を参照。当時のことを書いたある本によれば、当時のクリスチャンのもてなしを悪用する人たちがおり、「使徒」や「一般のクリスチャン」が旅行先でどのように振る舞うべきか、またそれぞれどのようにもてなすべきかを教える必要があったようです。

### 語句

【長老 テョウロウ】(1) ヨハネの手紙 第二の「語句」を参照。

【ガイオ】(1) 新約聖書の中に「ガイオ」という名前は何度かでてくるが、この手紙の受取人がどのガイオであるかは特定されていない。ただし、その地方の教会において指導的な立場であったことは明らかである。

はじめに

緒論を確認しましょう。

1. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
2. ガイオがどのような人物であったかを想像してみましょう。
3. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
4. もしそうするとしたら、という前提で考えてみるのも良いでしょう。また、その理由(根拠)も分かち合えると良いでしょう。
5. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。
6. ディオテレペスの行為の動機は、教理的なことではなく、個人的な野心にあったようです。その根底にある罪の問題にまで踏み込めると良いでしょう。
7. 聖書に書かれていることから読み取りましょう。

まとめ

完全に模範にできる人はいないと思いますが、部分的にでも模範にしたい人のことを率直に分かち合いましょう。

聖書は新改訳2017を使用しています。

---

## ヨハネの手紙 Epistle of John

発行日：2018年8月

著者：鈴木俊見（中四国地区主事）

発行者：キリスト者学生会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1OCCビル3F

03-3294-6916 / [office@kgkjapan.net](mailto:office@kgkjapan.net)

---

初めからあったもの、  
私たちが聞いたもの、  
自分の目で見たもの、  
じっと見つめ、  
自分の手でさわったもの、  
すなわち、  
いのちのことばについて。

ヨハネの手紙 第一 1章1節